



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomonono-mori.net> mailtp:info@kodomonono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2024年12月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今年最後の子森通信をお送りします。

今月号では、今年1年の中で、今後の展開が予想される注目すべき活動をふりかえりました。他の活動については、この機会に是非、ホームページをご覧ください。

J P 子どもの森づくり運動は、今年も皆様と共に大きな成果をあげさせていただきました。参加園の活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。来年もよろしくお願ひ申し上げます。

写真は、愛媛県「むぎの穂保育園」で育っているオナモミの種です。

かつてはありふれた植物でしたが、今や在来種が絶滅危惧種に指定されています。

園庭の緑化・自然化を提唱する同園の出原園長先生が自園で育てています。

そんな自然保育を推進する出原先生をお迎えて開催される「全国集会 & 研修会2025」の参加園を募集中です。

詳細はホームページで案内中です。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

(目次)

1. J P 子どもの森づくり運動 2024 年の活動報告～ふりかえり～
2. リレーエッセイ (2024年12月号)

日本郵政グループからのお知らせ

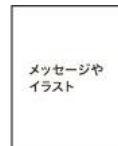
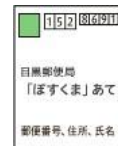
日本郵政グループは「J P 子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】

JP 日本郵政グループ



お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



ぽすくまの動画はこちら

ぽすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは郵便局のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。



YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

1. JP子どもの森づくり運動 2024 年の活動報告～ふりかえり～

2024年の終わりに、JP子どもの森づくり運動の主な活動を皆様と共にふりかえりたいと思います。紙面の都合で、すべての活動はご紹介できません。活動の詳細については、ホームページで逐次レポートしておりますので、この機会に是非ご覧ください。

1) 「東北復興グリーンウェイブ2024」今年も東北での植樹会が開催されました。

今年も大槌町と宮古市で、東北での植樹活動を実践することができました。大槌町での植樹会には、一昨年につづき、三陸鉄道の特別列車「どんぐり列車」の乗って、宮古市、山田町の子もたちが大槌町に集まり、大槌町の子もたちと一緒に全国から届いた苗木を植えました。全国では、「東北に苗木を見送る会」が開催されました。

※開催概要

- ・開催日：2024年5月22日(水)14:00～17:00 ・会場：岩手県大槌町、宮古市
- ・主催：大槌会場「つつみこども園」 宮古会場「あかまえこども園」 ・共催：NPO法人子森ネット
- ・特別協賛：日本郵政グループ ・協力：大槌町、あかまえこども園、三心会、つつみこども園



2) 保育防災「保育防災サミット in おおづち」が開催されました。

JP子どもの森づくり運動では、「保育防災リーダー」を養成する「保育防災認定講座」に取り組んでまいりましたが、さらなる保育防災の普及と東北の保育者と全国の保育者が 保育防災について考えることを目的に、保育防災の発祥の地である東北で、第1回目の「保育防災サミット」を開催しました。保育防災サミットは、今後、全国で展開され理念が受け継がれます。

※開催概要

- ・開催日：2024年5月22日(水)14:00～17:00 ・会場：岩手県大槌町文化交流センター
- ・企画主催：NPO法人子森ネット ・共催：大槌町 ・特別協賛：日本郵政グループ
- ・参加園（協力園）：あかまえこども園、とよまねこども園、山田町第一保育所、織笠保育園、つつみこども園、吉里吉里保育園、かまいしこども園、三陸鉄道、他



共催者あいさつ
大槌町 平野町長



基調講演
釜石小学校元校長 渡邊氏



参加園事例発表

3) 子どもたちの主体的な“遊び”を誘う自然体験活動を考える体験講座を開催しました。

JP子どもの森づくり運動の2024年度のテーマは、『子どもの主体的な遊びを誘う自然体験プログラムの構築』です。単なる体験活動ではなく、子どもの「非認知能力を育む」主体的な体験プログラムは、今、保育・幼児教育界においてもっとも関心の高いテーマです。キーワードは“自然遊び”。幼い子どもたちは、自然の中で何かを得るために「体験」するのでもなく「活動」するのでもなくただ楽しいから夢中で「遊び」、その過程の中で文字どおり自然に子ども本来の豊かな資質を育んでくれます。重要なことは、活動の運営者がどのように子どもの主体性を引き出し、伸ばせるかです。ハードルの高いテーマですが、まずは1歩からということで、自然体験活動のカリスマ講師萩原・ナバ・裕作氏による“子どもに沿った、子ども主体の自然体験活動を学ぶ”自然体験講座を開催しました。

※開催概要

- ・日時：2024年7月3日(水)開催】 ・場所：岐阜県郡上市「浄願寺」竹林
- ・主催：岐阜県「浄心こどもの城」 ・共催：NPO法人子森ネット
- ・特別協賛：日本郵政グループ ・講師：「岐阜県立森林文化アカデミー」教授 萩原・ナバ・裕作氏



4) 保育者サポート活動

●自然・環境体験活動サポート企画「どんぐりSDG s 劇団」

幼児期の子どもたちに、森の大切さやSDG s の大切な心を体感的に感じてもらうことを目的に、お芝居と自然・環境体験講座をセットにした「どんぐりSDG s 劇団」の上演ツアー実施しております。今年は、東北ツアーも実現しました。

(写真：岩手県「はなほこども園」にて)



●「保育防災認定講座」第4期講座

「本当に子どもたちの命を救う」ために、通常の防災の仕組みや方法が通用しない保育施設に特化した防災のスキルと高い防災マインドを持つ保育防災リーダー「保育防災アクションマイスター」の養成を目指す「保育防災アクションマイスター認定講座」に取り組んでいます。2024年度の第4期も、8園、15名のマイスターを輩出する予定です。(写真：鎌田 修講師)



●「園庭緑化運動」第2期講座

「園庭緑化運動」は、園庭を単なる運動の場ではなく、多様な自然と環境の体験フィールドとして緑化・自然化することを目的に、参加園に対して様々なサポートを提供しようという活動です。実践活動は、優れた先達に学ぶオンライン講座と3年間に渡り、モデル園3園の実践をサポートするモデル園講座の二つです。



2. リレーエッセイ (2024年12月号)

リレーエッセイ12月号は、「ウレシパモシリ」主宰 高橋 京子さんの最終回のエッセイです。今回は、子どもの森づくり運動のテーマである木とのふれあいについてです。3回に渡り、素晴らしいご寄稿をいただき本当にありがとうございました。

木となかよし

ウレシパモシリー 保育と自然をつなぐ研究会 – 主宰 高橋 京子



森に出かけたいと思っても、なかなか日常的に森には行けないですね。そこで、森の間伐材を園に持ち込む「木育」を行いました。

持ち込んだ丸太で遊ぶ前に、改めて自園の園庭に生えている様々な木と出会い直します。いつも遊んでいる園庭には、どんな木が生えているのか、みんなで気になった木を抱きしめて、木の温もりを感じてご挨拶。触ってみると、お日様が当たる木肌はあったかい！日陰は冷たい！ザラザラ！すべすべ！いろんな木肌があることに気がきます。

園庭の木に触れた後、持ち込んだヒノキの間伐材と遊びます。

ツムツム競争あそび

ランダムに伐り分けた丸太をゴロゴロと並べておきます。走って行って一つずつ積木の様に積んでいくチーム対抗ゲーム。時間内に一番高く積んだチームの勝ち。丸太は、既製の積木とは違い、皆不揃いで歪で、丸太の切り口や角度をよく見極めないと、なかなか高くは積みません。雑多な丸太の中からどれを選ぶかの判断と、どう積んでいくかの知恵が問われます。子どもたちは作戦会議をして、何回か繰り返す中で、次第にコツをつかんでいきました。歓声の中でチーム力が高まります。



ツムツム競争あそび



木の実のケーキ

木の実のケーキ作り&森のパーティー

今度は、薄切りにした木の輪切りをケーキのスポンジに見立てて、その上にクリームに見立てた粘土を塗って、木の実をトッピング。自由に自分らしくアレンジしながら、美味しそうな木の実のケーキが出来ました。

園庭の木に触れ、森から伐り出した間伐材をそのまま保育教育資源として日常の保育に繋がら、身の回りにある木への関心が一気に高まります。木の香りや木目にも関心を持ち、生活の中にある木でできているモノ探しも始まります。みんな木となかよしになります。(写真提供、及び活動園：群馬県沼田めぐみこども園)

この度は、3回連続お読みいただきありがとうございました。自然あそびは特別な事では無く、当たり前にある身の回りの小さな自然の命の営みや日々変化する自然事象の一つひとつの事実と遊びを通して出会っておくことが大切と感じてきました。心動かして感じて遊びこむ程に愛着を持ち『自然となかよし』になります。それを一緒に楽しむ大人がいることで、『センス・オブ・ワンダー』の世界を乳幼児期から育み、生涯に渡る心の支えとなっていくことを願います。

※執筆者紹介

ウレシパモシリー 保育と自然をつなぐ研究会 – 主宰 高橋京子 (写真)

豊かな子どもの育ちを応援したい思いを込めて、主に関東圏の保育現場に伺い、その園環境を見直し、身近な自然を保育教育資源として捉えなおす提案や、乳幼児からの五感を通した身近な自然あそび実践や、保育と自然をつなぐ講演・保育指導者研修も進めています。

※ウレシパモシリ ホームページ ⇒<http://ureshipa.jp>

